



(2) 生活科・総合的な学習の時間（いっしょうタイム）を軸にした持続可能な社会の創り手を育むための問題解決学習の充実

① ESD の視点に立った重視する能力態度を盛り込んだ単元計画の作成

国立教育政策研究所の整理した ESD の視点に立った学習指導における重視する能力態度を単元指導計画の中に計画的に位置付け、意図的・計画的に ESD の視点に立った学習指導で重視する能力態度を高めていくことができるようにする。

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

	能力・態度	具体例
1	批判的に考える力	情報や他者の意見を、よく検討・理解したうえで取り入れる力 よりよい方法や解決策はないかすすんで考える力
2	未来像予測して計画を立てる力	見通しや目的意識をもって計画を立てる力 他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる力
3	多面的・総合的に考える力	一つの事象を異なる視点で捉えること 様々な物事を関連付けて考える力
4	コミュニケーションを行う力	自分の考えをまとめて簡潔に伝える力 自分の考えと他者の考えを比較したり、他者の意見を取り入れたりする力
5	他者と協働する態度	相手の立場を考えて行動しようとする態度 仲間を励ましたり、考えを交流したりしながらチームで活動する態度
6	つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然など、自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ態度 いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する態度
7	進んで参加する態度	自分の発言や行動に責任をもち、約束を守ろうとする態度 自分の役割を理解し、ものごとに主体的に取り組もうとする態度

② 意欲を喚起する導入の工夫

問題解決的な学習を充実させるためには、事象との出会いの工夫や問いの工夫が重要だと考える。そこで、本校では単元の導入場面で以下の2点の工夫を行うこととした。

- 児童の疑問や意欲を高められるような出会いや問いの工夫
  - ・ 教師の困り感や、実社会の課題や現状などの提示
  - ・ 児童の思考の流れを想定した問いの工夫
- 新たな問いを見出したり、自分の意志をもったりするための問い返しやフィードバックの工夫
  - ・ 価値観の変容 態度化 行動化 を促す

③ 主体性を高めるための活動の工夫

児童が主体的に問いを見出しても、その後の学習展開を教師がリードしてしまったり、解決の見通しが一切もてない状況に陥ってしまったりしては、児童の主体的な学びは実現できない。児童の主体的な学びを実現し、学びに向かう力をより一層高めていくために本校では以下の4点の工夫を行うこととした。

- 教師の指導性発揮の場面と、児童の主体性尊重の場面のバランスを考えた指導計画の作成
  - ・ 学級全体で共通理解を図るべきことや、まとめ方など、指導性が求められる場面では躊躇なく指導性を発揮する。
  - ・ 児童の主体性尊重の場面では、教えるのではなく、問い返したり、思いを伝えたりして思考を促す。
  
- 児童の発想を大切にしたい学習展開（児童の主体性発揮の場面において）
  - ・ 子供の考えや意欲を受けとめ、肯定する（まずやってみる→失敗したらまた策を練る）
  - ・ 主体性尊重の場面では、子供を信じて学習を任せる。
  
- 見通しをもたせるための工夫
  - ・ 子供と相談をして、めあてを達成するために何時間必要か計画し、その時間は子供主体の学習を行う。
  - ・ 毎時間振り返りを行い、学習進度を調整しながら学習を展開できるようにする。
  - ・ 必要に応じて教師のフィードバックを行う。
  
- 振り返りの視点の工夫
  - ・ 子供に視点を示したり、子供自身が視点を選択したりして振り返りを行うことで、学習の深まりを子供自身が実感できるようにする。

振り返りの視点（現在検討中）

- ☆ 学びの深まりについての振り返り（学習前後の変容）
- ☆ 学習状況の振り返り（順調に進んでいるか 進捗状況）
- ☆ 学習方法の振り返り（どのような方法で学習したか。次回はどんな方法で行うか）
- ☆ 学び合いの振り返り（友達の話聞いて、やり方を見て、感じたこと）

→ 自分で考え 情報を集め 自分で決め 行動する 子供へ

## 5 研究仮説

生活科・総合的な学習の時間を軸に ESD の視点に立った授業づくり（問題解決学習）を行い、主体的な学びにつながるよう導入や展開を工夫すれば、自らの考えで行動し、友達と関わりながら課題に対して粘り強く問題解決に取り組む児童が育つであろう。